

# 代表質問

6会派の代表が行った質問の中から、いくつかを取り上げて要旨を掲載

すべての代表質問は市議会ホームページのインターネット議会中継で配信しています。

## 自由民主党岡山市議団

### 被災者支援につながる施策や

### 予防対策を含む補正予算を編成

**問** 被災した市民のために、復興予算を9月定例会市議会に追加で提案するがどのような方針か。

**答** 被災者の生活や事業の再建支援と公共施設等の復旧を加速していくべく、緊急対応で執行した既存予算の回復と併せて必要な予算を追加した。

被災者のニーズに沿ったきめ細かな支援につながるよう、本市単独で、あるいは国の施策に上乗せして実施する施策をできる限り盛り込むとともに、排水ポンプ場整備の前倒しなど、予防対策にも努めていきたい。



熱中症の予防を駅南地下道のデジタルサイネージで呼びかけ

### 増加する熱中症へ注意喚起

**問** 平成30年7月は全国的に熱中症の搬送が多かったが、本市の過去3年間の7月の搬送人数は。また、現在の取り組みは。

**答** 28年が168人、29年が188人、30年が512人で、30年は前年の2.7倍に増加している。

28年度から、救急要請につながる病気やけがなどを普段からの対策で予防する、予防救急

の取り組みを推進している。特に熱中症は、早い段階から出前講座やマスコミ等による広報を実施するとともに、路線バスへのポスター掲示、<sup>※3</sup>デジタルサイネージによる注意喚起など、あらゆる機会を通じて市民への周知を図っている。

### 支所の産業建設課の存続は

### 30年度中をめどに方向性を示す

**問** 7月豪雨では支所が拠点となり、災害情報の発信や道路等の早期復旧ができた。産業建設課を残した支所の存続が必要ではないか。

**答** 合併4地区の支所は、<sup>(注)</sup>新市計画終了を目安に地域センター化する方針を示しているが、産業建設課がなくなることに不安の声も上がっていることから、現在、あり方について検討を行っている。豪雨災害の検証も踏まえながら、平成30年度中をめどに一定の方向性を示したい。

### 農業の復興へ本市独自の支援

**問** 7月豪雨で被害を受けた農業者への支援策は。

**答** 国・県・本市の負担で、農地、農業用ハウスや農業機械、共同利用施設等の復旧や再取得への補助を行う。国は、収入減少に対する共済金の早期支払いや、栽培できなくなった場合でも「<sup>※4</sup>水田活用の直接支払交付金」を交付する。また、再開に向けた資金の確保として、貸し付けの特例措置や、被害果樹の植え替え、産地で行う追加防除、種苗の確保等に必要な経費

の助成などがある。

本市独自の支援としては、農業用ハウスや機械の修繕・再取得へ20パーセントの補助金上乗せや、資金調達に必要な保証料の負担などがあり、早急に営農を再開できるよう支援する。

### 事業者へ独自の支援策を実施

**問** 7月豪雨で被災した中小企業にはどのように対応したのか。また、ニーズを把握した支援策を実施しているのか。

**答** 発災直後に状況調査や事業者向け特別相談窓口を設置して各種相談に応じる体制を整備するとともに、事業者向けに災証明の発行に努めてきた。

本市では被災企業のニーズの把握に努め、国の補助金で対象外とされている、備品・什器等を対象とする「岡山市小規模事業者復興支援補助金」を創設した。また、資金調達を支援するため、「経営安定資金融資制度」等の融資利率を3年間0パーセントとする制度の創設や、経営計画作成支援として商工会等へ専門家を派遣している。

### 観光客回復へ宿泊支援を検討

**問** 7月豪雨以降の観光施設、宿泊施設等の利用状況と風評被害への対応は。

**答** 平成30年7月の岡山城の入場者数は29年と比べて約35パーセント減、後樂園が約40パーセント減、8月は岡山城が約19パーセント減となっており、回復傾向にあるものの29年を下回っている。

宿泊施設は、7月6日から18日の間に26施設で1万4,703人のキャンセルがあったが、災害

### ◆用語解説 ※3【デジタルサイネージ】

屋外・公共空間などのあらゆる場所で、ディスプレイなどの電子的な表示機器を使って情報を発信するシステムの総称

### (注)

岡山市・御津町・灘崎町新市建設計画（平成17年度から31年度まで）  
岡山市・建部町・瀬戸町新市基本計画（平成18年度から33年度まで）

ボランティア等の宿泊で稼働率は高かったと聞いている。9月以降の予約は例年より少ないと聞いており、秋の観光シーズンに向け、宿泊支援などを検討している。

### 土のうの事前配布で浸水対策

**問** 真砂土と土のう袋の配布場所を増やすべきでは。

**答** 現在実施している台風接近時の土のう配布は、場所や時間の制約があり、取りに来ること

ができない市民もいる。前もって各町内会等へ備蓄土や土のう袋を給付し、必要としている市民の近くに配備することで、より早く浸水被害に対処できるよう努めていきたい。

## 公明党岡山市議団

### 土砂が混じったがれき撤去に制度を創設

**問** 7月豪雨で、民有地の裏山などが崩れて、宅地内に流入した土砂等の処理の対応を、本市もするべきではないか。

**答** 宅地内に堆積した土砂等の処理は、ボランティアなどの協力で土のう袋に入れるなどして、排出されたものを本市が回収していたが、環境省の災害等廃棄物処理事業を活用し、宅地内に流入した土砂が混じったがれきの撤去について制度を設け、運用したいと考えている。

ただし、がれきが混じっていない土砂等のみが宅地内に堆積した場合は、他都市の取り組み例を参考に研究していきたい。

### 笹ヶ瀬川右岸（西側）の下水のポンプ場整備を前倒し

**問** 北区の尾上、花尻、白石、久米、今保などの笹ヶ瀬川右岸地域では内水氾濫が起き、左岸（東側）地域と明暗が分かれた。右岸と左岸のポンプ場の排水能力の差は歴然で、早急に右岸に

下水のポンプ場の整備を進めるべきでは。

**答** 浸水シミュレーションによる効率的な計画を策定中で、施設の規模や位置を決定し、平成36年（2024年）度の完成を目指していたが、7月豪雨を受け、できるだけ前倒して整備を進めることとし、補正予算を計上する。30年度途中からでも一定の準備をさらに進めていく。



笹ヶ瀬川右岸地域での浸水被害の様子

### 就労支援施設の経営安定のため商品を掘り起こし

**問** 本市では、障がい者雇用の促進のため、就労施設等から物品等の調達を促すための方針を定めており、前年度の調達実績を上回ることを目標にしているが、どのように達成するのか。

**答** 就労支援施設の商品カタログの活用や、本市の各部署への具体的な調達内容の提案を行うことで、優先調達を推進している。また、平成30年10月には、就労支援施設が改良・開発に取り組んでいる商品のテストマーケティングを実施し、優先調達につながるものの掘り起こしを図っていく。

### 無償化後の保育を見据える

**問** 国が平成31年（2019年）10月から実施を目指している幼児教育・保育の無償化を前に、本市では1歳児の保護者を対象にアンケートを実施したが、結果をどう考えるか。

**答** 現在の3歳児・4歳児の認可保育園の利用希望割合がおおむね全体の2分の1に対し、無償化後ではおおむね3分の2という結果になった。

今後、アンケート結果を踏まえた定量的な分析を行い、現行の子ども・子育て支援事業計画が今後の保育需要に対応可能な内容になっているか精査する。また、31年度の予算編成までに一定の整理を行うとともに、必要な対応を検討していく。

## 自由民主党岡山政隆会

### ハザードマップを学区ごとに

**問** 本市では災害の種類別にハザードマップを作成しているが、市民の理解度や活用状況は高くないと感じる。今後の対策は。

**答** 市民の理解度や活用状況は把握できていないが、市内全域のハザードマップでは自らの地域の位置付けがわかりにくいとの意見があるため、小学校区ご

との見やすく使いやすいハザードマップの作成を検討する。

### 生きがいを高める市老連

**問** 岡山市第六次総合計画の将来都市像の一つに「全国に誇る、傑出した安心を築く『健康福祉・環境都市』」があり、岡山市老人クラブ連合会（市老連）

### ◆用語解説 ※4【水田活用の直接支払交付金】

水田のフル活用を推進し、食料自給率・自給力の向上を図るため、販売目的で飼料用米、麦、大豆等を生産する農業者に対して直接交付する交付金



の果たす役割は重要と考えるが、どのような期待をしているか。

**答** 高齢化が進む中で健康寿命の延伸は非常に重要になる。そのために必要なものは運動や食生活、生きがいであり、市老連に参加することは生きがいを高めていく機能があると考えている。市老連はさまざまなボランティア活動にも参加してもらっ



ボランティアで折り紙を教えている様子

ており、本市としても非常に感謝している。

#### 南部地域への浸水対策

**問** これまでに整備した排水施設の7月豪雨での効果は。また、本市南部地域の浸水対策の進捗状況と今後の予定は。

**答** 北長瀬ポンプ場の新設や当新田・浦安のポンプ場のポンプ増設は、笹ヶ瀬川東側の南区で浸水被害が軽減したことから、大きな効果があると確認された。

なお、小串排水機場が平成30年度で完成し、浦安12号雨水排水路は30年度で整備完了する。また、浦安11号雨水管を30年度から7年間で整備し、南区の藤田地区と植松地区でポンプ場の設計を予定している。

#### イオンモール岡山へ期日前投票所の設置を合意

**問** 平成30年9月に、本市・各区の選挙管理委員会が統一地方選挙に向けて協議を行ったと聞いた。これまでも駅前大型商業施設への期日前投票所の設置を求めていたが、協議内容は。

**答** 投票環境向上のため、新たに4区の期日前投票所をイオンモール岡山へ設置すること、インターネットで不在者投票用紙等の請求申請も可能になること、投票への動機付けとして投票所来場カードを配布することを合意した。なお、マンパワー確保の関係から、今まで取り組んできた大学への期日前投票所の設置は困難と考えている。

## おかやま創政会

#### 公園に防災設備の設置を検討

**問** 災害の被害を抑えるために、防災公園の存在が重要になる。地域の公園にも防災トイレや太陽光発電を活用した照明施設、かまどベンチ、防火水槽など防災設備の充実が必要ではないか。

**答** 本市では、約250カ所の公園を避難地候補場所としている。避難地は住民が緊急かつ一時的に避難し、避難所へ移動する際の集合場所に位置付けられており、他都市では水や食料の配給場所や炊き出し場、地域情報提供の場などに活用している例がある。

公園が避難地として指定された場合には、地域の意見、公園の特性を踏まえ、防災設備の設置を検討したい。

#### 災害ボランティアセンターに見えた課題

**問** 7月豪雨では、北区と東区

に災害ボランティアセンターが開設された。東区と比べて北区は被災者からの応援要請が少なかったが、原因は。

**答** 北区の浸水被害の多くは土砂の流入が少なかったため、複数の地域で町内会など地域の共助で対応が可能だったと聞いている。一方で、北区は被災地域が分散し、開設の情報が届きにくかったとの意見もある。今後は本市としても、きめ細やかな情報の収集と提供に努めたい。



土砂の撤去作業を行う災害ボランティア

#### 幼稚園へのエアコン設置を検討

**問** 小さい子どもほど熱中症のリスクが高い。早急に幼稚園にエアコンを設置すべきでは。

**答** 平成30年の猛暑は、子どもの健康・安全管理への影響が懸念されるものだった。子どもの健康・安全を第一に考えていく必要があり、31年（2019年）の夏に間に合うよう、早ければ次の議会までにどのような対応ができるか検討したい。

#### 障がい者雇用を推進

**問** 本市の教育委員会で水増し問題が発覚した。多様性を認める社会や障がい者雇用の必要性をどのように考えているのか。

**答** 年齢や障害の有無など、違いを認め合える社会の実現が必要であり、また、一人一人が能力を発揮できる社会をつくるために障がい者雇用を推進する必要がある。本市では、職務内容、職場環境等を総合的に勘案し、安心して働くことができるよう引き続き努めていく。

## 日本共産党岡山市議団

被災者の医療費負担など  
免除は国の動向を注視

**問** 床上浸水以上の被災者への医療費の窓口負担や介護保険利用料を無料にする国の事業は、平成30年10月までとなっているが、自治体が期間の延長をすれば、国も財政支援を行うとしている。本市も延長してはどうか。

**答** 必要な医療・介護サービスの利用に支障をきたさないよう、窓口負担や利用者負担を免除しているが、期間延長については、各種支援策を勘案し、国の財政支援の動向も注視しながら検討していく。

点字版防災マニュアルを作成へ

**問** ハザードマップや避難所情報などを、点字や音声で配布することは検討しているのか。

また、ごみ出しやふれあい収

集への検討状況はどうなっているのか。

**答** 災害への備えや避難方法などを記載した「岡山市防災マニュアル」の点字版は、岡山市視覚障害者協会のアドバイスをもらい作成準備を進めている。音声版は有益な手段と聞いており、今後作成を研究していきたい。

また、ごみの出し方やふれあい収集の点字や音声による情報



市ホームページでも公開されている  
岡山市防災マニュアル

## 市民ネット

管理運営実施計画で示す  
新たな劇場の事業規模や内容

**問** 岡山芸術創造劇場（仮称）は、創造事業が少なすぎる、使命や目的が不明確などの指摘がある。劇場では、何をどのように実現していくのか。

**答** 「魅せる」「集う」「つくる」のコンセプトに沿った事業を実施していく中で、子どもの創造力を養い育てるとともに、活力とにぎわい溢れる地域社会の実現を図っていく。

今後、有識者の意見や整備経費等を踏まえ、平成30年度に策定する管理運営実施計画で事業規模や内容を具体的に示す予定にしている。

外国人への情報提供を考える

**問** 避難や支援の情報などを、外国人に現在どのように提供し、今後、どう改善するのか。

**答** 岡山市基本政策審議会で、外国人がエリアメールを見ても分からないという指摘があり、やさしい日本語という視点で考えなければならない。また、避難情報を学区単位で提供しているが、外国人だけでなく旅行者などにも分かりにくい。

情報提供の課題は山積だが、教訓として、今後是对応できるようにしていきたい。

ジェンダーの視点で政策づくり

**問** 「岡山市<sup>※5</sup>ジェンダー統計 岡山市の女性と男性2017」リ

発信は、情報量が多いものもあり、内容をコンパクトにするなど、実用的な発信方法を検討していく。

子どもの生命・安全確保のために休園や休校の目安を協議

**問** 災害発生時の、①保育園②小・中学校③学童保育（放課後児童クラブ）での休園等の判断には、どのような課題があり、どう整理するのか。

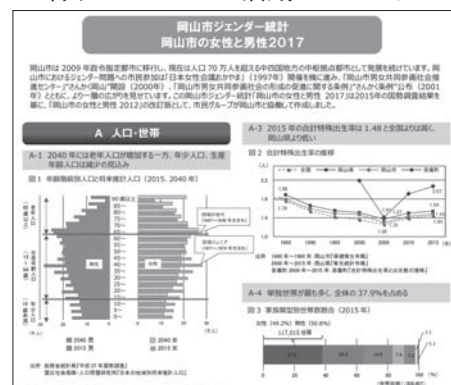
**答** ①休園の明確な規定はないが、特別警報や避難指示等の発令に際しての開園、閉園の目安をできる限り早期に作成し、周知を図っていきたい。

②大雨警報や避難情報が出た際の休校の判断が課題であり、基準を早急に検討していきたい。

③閉所は各クラブで独自に判断しているが、今後は何らかの目安を示す必要があり、できるだけ早急に小学校や児童クラブ連合会等と協議をしていきたい。

リーフレットが市民との協働事業で作成された。どのように市民に啓発し、政策づくりに生かすのか。

**答** リーフレットはホームページで公開しているが、市民対象の講演会等でも積極的に活用し、啓発していく。また、本市の政策立案でもジェンダーの視点は必要であり、職員間で認識を共有するためにも活用していく。



活用が期待されるジェンダー統計リーフレット

◆用語解説 ※5【ジェンダー統計】

男女間の意識による偏り、格差及び差別の現状並びにその要因や現状が生み出す影響を客観的に把握するための統計